



地域の概要



市の南部に位置する谷山地区は、団地においては同世代が一斉入居しており高齢化が進む一方、子育て世帯等の流入もあり、人口は横ばいで高齢化率は24.5%と低い。



取組のきっかけ

住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループ（高齢者への声掛け、安否確認等）として活動を開始。活動を通じて、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始めた。



取組の目的

- 自分でできることは一緒に取り組んでもらうようにしている
- 活動の入り口は目の前の人を笑顔に変える会話



これまでの経緯

年・月	出来事
平成25年頃	住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループとして活動を開始。 ともしび 活動をしていく中で、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始める。
	ボランティア団体として社会福祉協議会へ登録。
平成29年11月	市の「生活支援支え手育成モデル事業」へ登録。
平成31年4月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
令和5年8月	遠方からの相談も、困っていると思うと断ることができない。相談の方の地域で活動員になってくれそうな方を探す、その地域で高齢化が進んでいる状態。



活動の概要

◆**活動内容**：調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、
外出付添、衣類整理、家具移動など

◆**活動範囲**：谷山地域

◆**利用料**：無料

◆**対象者**：地域内住民

◆**構成員**：男性1名、女性3名（計4名）

◆**利用人数**：7名

◆**活動に関わった人・団体**

本人・近隣住民・民生委員児童委員協議会

地域包括支援センター・ボランティアグループ「すまいる」



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から頼りにされることで、活動にやりがいを感じる
- 活動が健康維持につながり、介護予防になっている。

〔課題〕

- 問い合わせが多く、活動の規模により、場合によっては対応が難しい場合もあること。